

国際会議から

第31回雷防護国際会議

本会議は、雷から人体や機器を防護する方法や、雷の科学的調査の促進を目的として、1951年以来ほぼ隔年に開催されています。

基調講演では、火薬庫に雷が落ちて街全体が大被害を受けたことから雷研究の歴史が始まったことや、実空間での雷現象と室内実験との対応関係が未解明であること等の課題が示されました。

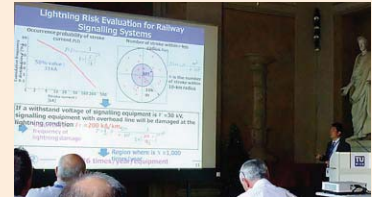
世界各国から、雷観測統計、雷計測システム・落雷位置標定システムの事例、雷サージ防護デバイス、送電線・風力発電機の雷防護、避雷針・接地の設計解析など235件の発表がありました。

日本からは、鉄道事業者、大学、雷防護関係メーカーなどから、20余名が参加しました。鉄道総研からは、信号



森本 大観
電力技術研究部
き電研究室
副主任研究員

機器の雷害対策に関する研究と、直流き電回路の雷害断線に関する研究の2件を発表しました。



発表会場風景



正式名称：The 31st International Conference on Lightning Protection
 開催国：オーストリア共和国（ウイーン）
 期間：2012/9/2-7
 主催：Austrian Electrotechnical Association (OVE), Vienna University of Technology (TU Vienna), 協賛：IEEE
 開催頻度：1回/2年
 次回開催予定：2014年10月 中国（上海）
 ホームページURL：http://www.iclp-centre.org/index.html